

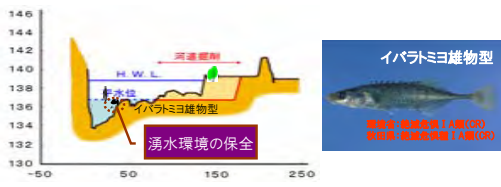
環境の特徴

雄物川と流域の人々との歴史的・文化的なつながりを踏まえ、良好な河川景観や多様な動植物が生息・生育する自然環境を保全及び創出し、次世代に引き継ぐ

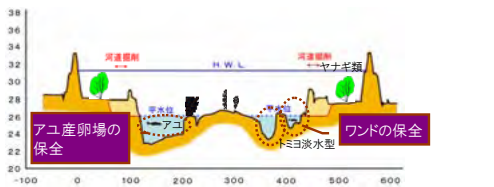
自然環境に影響を与える河川改修及び河道掘削は極力回避

- 上流及び中流域については、ワンド等で湧水環境がみられる箇所にはミヨ淡水型やイバラトミヨ雄物型が生息しており、湧水環境への影響がないよう保全。
サケやアユ、ウグイの産卵場となっている早瀬や、コアジサシが生息する中州の砂礫河原の保全。
- 下流域については、オオヨシキリ等草原性鳥類の繁殖場であるヨシ原の保全。
- 河口域については、ハマボウフウやシロヨモギ等が生育する砂丘環境の保全。

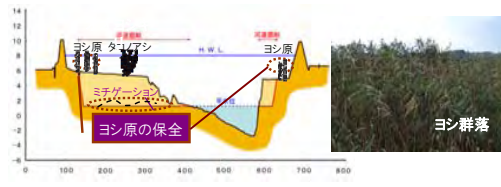
上流部



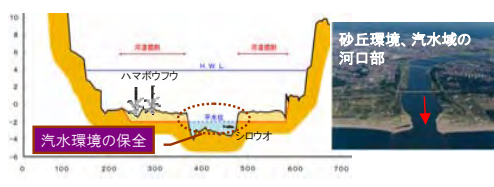
中流部



下流部



河口部



雄物川が育んできた豊かな自然環境、歴史、文化等の恵みを活かした地域づくりに資する川づくりを推進

- 上中流部の田園風景や下流部の都市景観、沿川に伝わる川と深い関わりを持つ伝統行事等と調和した水辺空間の保全・維持に努める。
- 歴史、文化、環境の学習ができる場等の整備、保全を図る。
- 雄物川はカヌー体験や花火大会、伝統的祭り等のイベント、スポーツレクリエーション、釣り等地域住民の憩いの場として利用されていることを踏まえ、河川に関する情報を地域住民や河川を中心に活動する住民団体等と幅広く共有し、住民参加による河川清掃、河川愛護活動等を推進するとともに、防災学習や河川利用に関する安全教育、環境教育等の充実を図る。

環境学習と空間利用の活用例

- 水辺拠点を中心に水質調査などの体験学習が実施され、総合的な学習の場として活用されている。



貴重な史跡・伝統行事

- 「鹿鳴流し」や「ぼんでん奉納」等の川と深い関わりを持つ祭りが各地に伝わり、毎年行われている。



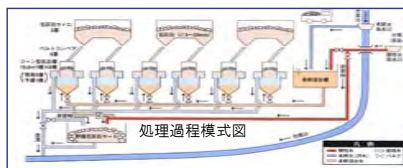
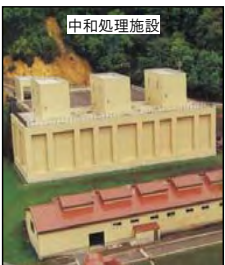
河川を利用したイベント、カヌー利用

- 雄物川は、だれもが安全に、安心して乗り降りできるカヌー発着場を27カ所設置。自然にふれあえる身近な親水拠点、地域に活力を与える水辺交流拠点としての活用を支援している。又、NPO法人秋田バドラーズ等による講習会や体験会を開催し、カヌーの楽しさの他、河川愛護としての活動が行われている。
- 明治43年に始まった「全国花火競技大会(大曲の花火)」は毎年8月に大仙市の高水敷で行われ、70万人以上の観客が訪れる伝統行事として全国に知られている。



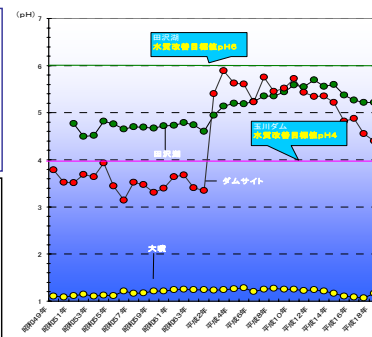
玉川酸性水対策を継続実施し、河川環境を維持

- 玉川は、強酸性水の河川で利水の障害となっており、玉川ダム建設事業の一環として酸性水中和処理施設を稼働。
- 玉川筋においては農業用水取水地点の神代ダム下流地点でpH6.5となり、農業用水基準値pH6を満足するに至った。
- 田沢湖においては、中和処理後の水が導水されることにより、湖水に生息する生物の種類・数は徐々に増加しているが、pH5.5と低く、水質改善目標のpH6.0には至っていない。



歴史的経緯

- ・昭和14年 農業用水の確保及び電源開発を目的に、内務、逓信、農林の3省が協議の上、田沢湖を利用する「玉川河水統制計画」を策定
- ・昭和15年 秋田県により地下海透法及び田沢湖導入開始
一時的に効果を上げたが、田沢湖事態のpHが低下し、生息していたクニマスなどの魚類が姿を消す
- ・昭和50年 構造部への影響を踏まえ、玉川ダム工事事務所による調査開始
玉川毒水対策技術検討委員会設立
- ・昭和63年 玉川酸性中和処理施設の建設着工
- ・平成元年 玉川酸性中和処理施設試験運転開始
- ・平成3年 本格運用開始



- ・平成3年4月本格稼働の酸性水中和処理施設
- ・日量10,000m³の酸性水を処理

雄物川の河川整備基本方針の概要

● おものがわ雄物川水系（流域面積 4,710km²、幹川流路延長 133km）

おものがわ雄物川は、その源を秋田・山形県境の大仙山（標高920m）に発し、あきた やまがた だいせんやま奥羽山脈から発する皆瀬川、お う さん み や く横手川等の支川を合わせながら横手盆地を北上し、玉川を合流した後、進路を北西に変え、秋田市あき た し新屋で旧雄物川を分派し、本川は放水路を経て日本海に注ぎ、旧雄物川は秋田港を経て日本海に注いでいる。

その流域は、秋田県のだいせん県都秋田市や大仙市など5市2町1村からなり、沿川には東北中央自動車道、東北横断自動車道、国道7号及び13号、秋田新幹線（JR奥羽本線・田沢湖線）、JR奥羽本線、JR羽越線等が雄物川と並行及び交差しながら整備されており、交通の要衝となっている。雄物川流域は、と わ だ は ち ま ん たい十和田八幡平国立公園やくりこま栗駒国定公園、たざわこ田沢湖、おやすきょう小安峡等の豊かな自然環境、景勝地に恵まれるとともに、かくだてぶけやしき全国花火競技大会、にゅうとうおんせんきょう角館武家屋敷、乳頭温泉郷等豊富な観光資源にも恵まれている。下流部の秋田市は、藩政時代からの城下町として栄え、この地域における社会・経済・文化の基盤をなしている。このような状況から、本水系の治水・利水・環境についての意義は極めて大きい。

雄物川は、明治43年9月や昭和22年7月等の大洪水を契機に雄物川放水路や大曲捷水路等の治水事業を治水安全度のバランスを考慮して展開してきたものの、昭和62年8月や平成14年8月等の洪水では、未だ多く残る無堤区間などにおいて、浸水被害が生じている。

このような状況を踏まえ、それぞれの地域特性にあった治水対策を講じることにより、水系全体としてバランスよく治水安全度を向上させるため、流域の豊かな自然環境や地域の風土・歴史等に配慮しながら、堤防の新設、拡築及び河道掘削等を行い、河積を増大させるとともに、水衝部等には護岸等を整備し、計画規模の洪水を安全に流下させる。なお、堤防の基礎地盤や築堤材料の特徴を踏まえ、堤防の詳細な点検及び堤防の質的強化に関する研究等を実施し、堤防の質的強化を図り、堤防の安全性を確保する。そのため、河口部、支派川の分合流部等において洪水の安全な流下、河床の安定を図るため、洪水時の水位の縦断変化等について継続的な調査観測を実施し、その結果を反映した河川整備や適切な維持管理を実施する。また、河道で処理できない流量については、気象予測や情報技術の進展、水文観測や流出解析精度の向上等を踏まえた、より効果的な洪水調節の実施により既設洪水調節施設の治水機能向上を図るとともに、洪水調節施設を整備する。なお、河道の整備にあたっては、上流の流下能力を増大させるとその下流部に対する負荷が増すことから、堤防を含む河道の縦横断形などの河道整備の在り方について検討し、必要な整備を図る。

河川環境の整備と保全に関しては、雄物川と流域の人々との歴史的・文化的つながりを踏まえ、雄物川の流れが生み出す良好な河川景観や多様な動植物が生息・生育・繁殖する自然環境を保全及び創出し、次世代に引き継ぐよう努める。

（基本高水のピーク流量及び計画高水流量）

基本高水のピーク流量は、既定の工事实施基本計画と同様に基準地点椿川で9,800m³/sとし、河道と洪水調節施設への配分についても工事实施基本計画と同様に流域内の洪水調節施設により1,100m³/sを調節し、河道への配分流量を8,700m³/sとした。